

国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)

これまで「全国ユース環境活動発表大会」の全国大会が開催されてきた東京・南青山にある国連大学。どのような活動をしているかご存じですか？

今回は、国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) で日々熱心に研究に励んでいる研究員の活動をご紹介します。

国連大学 (UNU) とは？

国連大学は、グローバルなシンクタンクであり、大学院教育・能力開発を行う学術機関です。世界12か国に14の研究所があり、日本に本部を置いています。国連大学の使命は、人類の生存、開発、福祉といった緊急性の高い地球規模課題を、共同研究や教育を通して解決へと導くことです。



国連大学

Photo:UNU

国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) とは？

国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) は、東京に拠点を置く国連大学の研究・教育機関のひとつです。研究所の活動には、「持続可能な社会」、「自然資本と生物多様性」、「地球環境の変化とレジリエンス」という3つの大きなテーマがあります。またUNU-IASは、国内外の主要大学との緊密な協力のもと、修士・博士課程、ポスドクフェロウシップ、短期コースを実施しています。



国連大学 サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) JSPS - UNU ポスドクフェロウ レティシア・ドス・ムチャンゴス

プロフィール：中国の重慶大学で修士（環境工学）、大阪大学で博士（環境工学）を取得後、2017年からJSPS（日本学術振興会）の外国人特別研究員として UNU-IASで研究活動に従事している。
国籍はモザンビーク

私はUNU-IASで「廃棄物の管理」について「持続可能な開発のための教育 (ESD)」と「持続可能な開発のためのガバナンス (GSD)」という2つのプロジェクトに所属して研究しています。中でも、ごみの収集といった廃棄物に関する教育やキャンペーンを行う際、ジェンダーや地域社会の特性をどう活かすかが大きな研究課題です。

私が故郷モザンビークで大学生だった頃、路上に放置されたゴミ問題が国内で注目を集めていました。収集されたゴミの行方について調べるうちに、大規模なゴミ集積場がモザンビークにあることを知って衝撃を受けました。実は身近にあったそのゴミ集積場の規模の大きさに驚くとともに、そのすぐそばで生活している住民への影響は深刻なのではないかと考え始めました。これが研究の道に進むきっかけです。

ごみ問題は開発途上国、先進国どちらにおいても重要な課題です。消費のあり方の改善、持続可能なデザインの推進、廃棄物の適切な管理、廃棄物削減など課題は山積みです。だからこそ効果的な環境マネジメント、資源の活用、廃棄物管理に関する研究を進め、課題解決に貢献したいと強く願っています。

日本の廃棄物処理システムから学ぶこと

日本は環境工学という分野でも、廃棄物処理システムにおいても実績のある国なので、直接学びたいと思い日本に来ました。モザンビークでは、まだ廃棄物処理システムが確立されていないので、日本の生ごみの埋め立てやゴミの収集、処理技術、最終処分の仕方など学ぶことが多くあります。

初めて日本に来て驚いたのは、ゴミ収集の仕方です。ゴミの出し方が細分化且つ組織化されていて素晴らしいと感じます。一方で、どんな小さな物も個別包装するなど、プラスチックトレーやビニール袋などによる過剰包装には驚きました。

これまで日本で研究を進める中で一番印象的だったのは、ごみ焼却施設から出る処分灰で作られた埋立地を実際に歩いたことです。地域や環境に配慮した廃棄物処理のあり方とその可能性について深く考えるきっかけとなりました。

持続可能な社会の実現へ 東京2020大会に寄せる期待

日本が東京2020大会に向けて、持続可能性に配慮した運営計画を策定している点にも注目しています。この運営計画は、持続可能な資材の調達や製造といったハード面は充実していますが、ステークホルダー間のコミュニケーションや参加の促進、個人や組織の意識改革といったソフト面の要素が欠けているように感じます。政府、企業、市民社会といった関係者全員の理解と合意、参加が運営計画を成功へと導く鍵となります。計画に向けて、それぞれが自分の役割を的確に把握して能力を発揮するためにも、コミュニケーションをスムーズに行い、意識と理解向上を促す効果的なプラットフォームの確立が必要だと思います。

私にとって「持続可能な社会」とは、個々人が他者からの支援がなくても自立、自活できる社会です。「資源を過剰に消費する社会」と「資源不足に苦しむ社会」という構図から脱し、より平等で自然環境との調和のとれた社会が実現できたらと願っています。



廃棄物処理の現場視察（米国テキサス州）